

お盆は先祖様里帰りのご供養の祈りをささげよう

先祖様は、樹木の根である。現在の私たちは、両親、祖父母をたどっていくと、果てしなく時代を遡ることになります。この生命の流れは、巨大な樹木に喩えれば、私たちは枝や幹に当たり、ご先祖様は太い幹を支える根、更に遠いご先祖様は、根を支える土で有ります。つまり根元の土が肥えていなければ、樹木の勢いが衰えてしまう。

今、生きる私たちがイキイキと毎日を送れるのは仏様先祖様のご加護のおかげであり、その源となるのは日々捧げるご供養の祈りが込められています。

はるか遠いご先祖様から代々受け継がれてきた命、歴史文化、日々の生活に思いをはせる感謝の祈りで、私たちはより深く命の尊さを感じてほしいのです。

お盆には、各家のご先祖様が天上界から懐かしい我が家に里帰りされます。ご先祖様に祈りのご供養を捧げるとともにいきとし生けるものすべてに功德をめぐらす。これが、各家の繁栄につながります。



願わくはこの功德をもって われらと衆生、みな共に仏道に成ぜん

お盆の由来

どうしてお盆ではお墓参りなどの供養を行うことになったのか。

お盆の正式名称である「盂蘭盆会（うらぼんえ）」からきており、盂蘭盆会とは、サンスクリット語で「Ulamana / うらぼんえ」の音写であります。音写が中国に伝わった当時の当て字「盂蘭盆（うらぼん）」が短縮され「盆」という言葉として日本に定着したと言われています。この「うらぼんえ」とは「逆さ吊りの苦しみ」といった意味があります。

その昔、お釈迦様の弟子のひとりである目連尊者は、死んだ母が地獄に落ち、あの世で苦しんでいることを知ります。目連尊者は、母を救うためにはどうしたらよいか、お釈迦様に助けを求めると、「母のみを救いたいと願うのではなく、母と同じ苦しみを持った全ての人々を救いたい」という気持ちを持ちなさい」と説かれます。

また、僧侶が一か所に集まって九十日間ほど集中して行う「安吾（あんご）」という厳しい修行を終える七月十五日に修行僧たちをもてなし、功德を積むよう教えられます。お釈迦様の言うとおりに僧侶たちへ布施を行った目連尊者の母は、無事に極楽往生できたと伝えられています。この目連尊者が行った母への手厚い供養がきっかけとなり、旧暦の七月十五日は、先祖供養を行う習慣が根付き、現在まで続いているとされています。

お盆は、先祖の霊が里帰りをいたします。先祖様が喜んで帰られるように、迎え火をして、僧侶に読経をしていただき、ご詠歌を唱えて、先祖様と語りましょう。

仏壇の前に、精霊だなを作り、なすび、キュウリ、トマト、トウモロコシ、そうめんなど。そして御膳を供えて、迎えます。急いで帰ってもらえるように馬（キュウリ）を供え、送りは、ゆっくり帰ってもらえるように牛（なす）を供えます。そうめんは、幸せが細く長く続くようにと願いが込められています。

お盆の行事予定

墓回向参り

八月 十一（日）

午後四時

棚経（檀家）回向参り

八月 十三（火）

盆施餓鬼会参り

八月 四（日） 午後三時



「舍利礼文」

このお経は在家勤行式の中に書かれています。

お釈迦様の遺骨を通して、釈迦のおしえを、世界全体に広め、如来と一体となつて悟りを得、神仏の力によって人々を救済し、悟ろうとする心で菩薩行を修行すれば、涅槃にいたり、智慧が完成される。』という内容が書かれているそうです。

此の世は、迷いの世界です。私たちは、

貪り、怒り、愚痴という二つの毒をもつ

ています。際限ない欲を追い求め、他人

をねたみ、ののしり、思い通りにならな

ければ、愚痴を言う。ほんと愚か者です。

でもお釈迦さまは、之れが人間なん

だ。なにも恥じることでない。この3つ

の毒に気づくことである。之れが生きる

修行なのだ。仏の教えを知るとい

は安らかに生きられるよ。だからお経を

よむんだよ。必ず、私たちを救ってくだ

さるのです。仏様にお祈りをしましよ

法話会

ご希望の方には、本堂開けまして「玉泉寺住職日記」を毎日ご覧いただけます。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇—三七〇八—七二〇六

FAX (〇七七)五〇二—二七九

Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp

新Eメール info@syokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をご覧ください。